

☆主の変容(8月6日)の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (ダニエルの預言 7章 9-10, 13-14 節)

わたしがなお見ていると、王座が据えられ、「日の老いたる者」がそこに座した。その衣は雪のように白く、その白髪は清らかな羊の毛のようであった。その王座は燃える炎、その車輪は燃える火、その前から火の川が流れ出ていた。幾千人が御前に仕え、幾万人が御前に立った。裁き主は席に着き、巻物が繰り広げられた。夜の幻をなお見ていると、見よ、「人の子」のような者が天の雲に乗り、「日の老いたる者」の前に来て、そのもとに進み権威、威光、王権を受けた。諸国、諸族、諸言語の民は皆、彼に仕え、彼の支配はとこしえに続き、その統治は滅びることがない。

第二朗読 (使徒ペトロの手紙II 1章 16-19 節)

愛する皆さん、わたしたちの主イエス・キリストの力に満ちた来臨を知らせるのに、わたしたちは巧みな作り話を用いたわけではありません。わたしたちは、キリストの威光を目撃したのです。荘厳な栄光の中から、「これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者」というような声があつて、主イエスは父である神から誉れと栄光をお受けになりました。わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。こうして、わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意しててください。

福音朗読 (マタイによる福音書 17章 1-9 節)

それから、イエスはペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。ペトロが口をはさんでイエスに言った。「主よ、わたしたちがここに

いるのは、素晴らしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」彼らが顔を上げて見ると、イエスのほかにはだれもいなかった。一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない」と弟子たちに命じられた。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

毎日うだるような暑さが続いています。今日教会では「主の変容」の祝日が祝われます。イエスの受難の時に弟子たちの信仰が揺らいでしまわないように、前もってイエスの栄光ある姿を弟子たちに示された記念です。また日本では6日から15日までを平和旬間として平和を祈る期間として示されています。今もなお世界の各地で戦争や紛争が続いています。また食料の偏りにより飢えに渴く人々が増えています。この世界の現状を変えていくには祈りが必要です。祈りながら私たちの生活を見直すことによって神さまの慈しみを願うのです。もう一つは「ワールドユースデイ(8月1日～6日)」がポルトガルのリスボンで開かれています。フランシスコ教皇様も出席される青年たちの祈りの集いです。世界各地から100万人以上の若者たちが集うのです。これからの世界を変えていく青年たちを神が豊かな恵みをもって助けてくださるように祈りましょう。

第一朗読 (ダニエルの預言 7章9-10, 13-14節)

「日の老いたるもの」つまり神の持つ力強さ、偉大さが語られています。元来神を表徴として表すことができないのですがそれでもこの表現をもって神を表そうとしているのでしょう。私たちが目にする父である神の肖像など

はこの言葉から起こったものかもしれませんね。また「人の子」という表現も出てきます。父なる神のもとに進み、その父なる神から「権威、威光、王権」を受けたとあります。まさにイエスのことを表しています。この第一朗読は今日の福音の父なる神とイエスとの姿を現しているのですね。

第二朗読（使徒ペトロの手紙Ⅱ 1章 16-19 節）

使徒ペトロは自分が体験した「主の変容」を私たちの信仰の希望の印、根拠として信徒の皆さんに紹介しています。宣教上の巧みな作り話ではなく、「本当に私は体験したのだ」と。イエスの変容の有様を、目撃し、「天から響く声。を聴いたのです。また、預言の言葉が一層確かなものになったとも言っています。それまでの聖書の中(旧約聖書)で書き記されたたくさんの預言がイエス・キリストにおいて成就していることをペトロは確信し、イエスが救い主であることの根拠としたのです。

福音朗読（マタイによる福音書 17章 1-9 節）

聖なる山での貴重な出来事が語られています。イエスは三人の弟子を連れて山に登られています。弟子達にとってみれば「なんで三人？」と思たでしょうね。ペトロとヤコブ、そしてヨハネ。後から考えるとこの三人は初代教会を築きあげた長老たちです。先の第二朗読に記されているように、信仰の希望の土台、根拠としてこの三人は存在することになるのです。そして父なる神とイエスとの関係を表した言葉「これは私の愛する子、私の心になう者、これに聞け」を聞いたのです。弟子たちは恐ろしくて地面に伏せていたようですが、この言葉をはっきりと聞いていたのです。



北アルプス・立山(雄山2991m)2023年7月

P.S.

教会共同体のより力強い一致のために「祈りの連帯」を模索しています。一日のある時間帯(例えば夜8時から9時の間)に短い祈り(個人の選択で結構)を教皇様の意向に合わせて祈るというものです。どこかで誰かがこの時間帯に祈っているというものです。参加しますという宣言は必要ありません。祈りの意向は一か月ごとにまた臨時にお願いすることもあるかもしれません。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光